



やまびこ



令和7年7月28日
諸塚小学校 校長



日々発信中

「命の重さにふれて」～すべての命に感謝する心を育む学び～

7月第1週は「宮崎県いのちの教育週間」でした。本校でもこの期間に合わせて、全学年で「命の大切さ」を考える学習を行いました。私たちは一人で生まれ、一人で生きているものではありません。誰かに守られ、つながってきた命を実感することで、子どもたちは自分自身や他者、そして動物や自然に対する思いやりを深めていきます。

今回の学びを通して、子どもたちのまなざしは一段と優しく、深くなつたように感じました。

◇命をつなぐバトン～5・6年生の学びより～

7月2日、「ワン＆オンリー宮崎いのちの会」の方をお招きし、命の学習を行いました。講話では、命のバトンについてのお話、中絶に関するデータ、講師の方のご家族の体験談、啓発活動の紹介などがあり、命の重みを感じるような内容でした。子どもたちは真剣なまなざしで話を聞き、深く心を動かされたようです。以下は児童の感想の一部です。

○今、ここに生まれることができない子や、生まれてすぐ亡くなる命があることを知った。

○祖先がいたから自分が生まれた。自分が生きていることは奇跡なんだ。

○命は誰にでもある。生きられることは当たり前ではない。

○家族だけでなく、多くの人に支えられていることに感謝したい。



【1・2年生 聴診器で自分の心音を聞く】



【愛護センターの方のお話】

◇小さいのちを思いやる心～1～4年生の学びより～

1～4年生は、「みやざき動物愛護センター」の方から命の大切さについて学びました。心臓の音を聴く体験や、動物との関わりについてのお話を通して、命あるものすべてへの思いやりを育んでいきました。「生きているってどういうこと?」「いのちを大切にするって?」子どもたちは、問いかけに真剣に向き合いながら、命の尊さに触れていました。



◇大人として、地域として、命の学びを共に育む

子どもたちの命の学びは、学校だけで終わるものではありません。家庭での会話や、地域の中での何気ないふれ合いが、その気づきをさらに深めてくれます。今回の学びをきっかけに、命について話す時間が少しでも生まれたらうれしく思います。



地域の皆さんに支えられて～1学期の終わりと夏休みに寄せて～

本校の子どもたちは、無事に1学期を終えることができました。

毎日、子どもたちの登下校を温かく見守ってくださる地域の皆さんのおかげです。あいさつの声を交わしてください方、遠くから静かに見守ってくださる方、作業の手をとめて手を振ってくださる方……そのすべてが、子どもたちの安心と成長を支えてくださっています。こうした地域の温かなまなざしがあるからこそ、学校生活は安全で、豊かで、そして子どもたちにとって心地よいものとなっています。

改めて、地域の皆さんのご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。引き続き、夏休み中の子どもたちにもあたたかい見守りと声かけをしていただけますと幸いです。



【3・4年生 七ツ山婦人加工所前にて】

諸塚のすてき発見～3・4年生の学び～



【3・4年生 味噌造りの見学】

3・4年生は、「諸塚のすてき発見」の学習で、「七ツ山婦人加工所」と「もろっこハウス」を見学しました。「七ツ山婦人加工所」では、みその香りに包まれながら、味噌造りの様子を見学。「この味は七ツ山の空気でしか出せないんですよ」というお話を、地域ならではの味の深さを感じていました。「もろっこハウス」では、椎茸などの特産品が工夫をこらして販売されており、村外にも諸塚の魅力を伝えようとする取組に、子どもたちは感心していました。

この学習を通して、子どもたちは村の良さをあらためて知るとともに、諸塚を大切に思う心を育んでいるようです。